

皆さん、こんにちは。

7月も終わりに近づき1学期終業式の日となりました。

先日行われた翔舞祭では、小委員会やクラスなどそれぞれが工夫を凝らし企画・運営、そして発表でき立派でした。シンボルのイヌワシは、私の知る限り初めての「立つイヌワシ」でした。羽の一枚一枚まで丁寧に創り上げられた姿に新たな伝統の始まりを感じました。またバトンやスラックラインなど、皆さんの知らない一面もたくさん見ることができましたし、その姿をあたたく見守り応援する皆さんにも、中西生としての素晴らしさを感じることができました。

さて、皆さんはどんな1学期でしたか。

私はいくつか印象に残ったものがありますが、そのひとつに ABIMORI 植樹リーダーの活躍があります。大きな役割を終えた後に撮った集合写真は、みんな清々しい笑顔で、充実感に溢れていました。素敵なワンショットでした。

私たちは誰でも「他者（ひと）の役に立ちたい」という気持ちを持っています。人との出会いや交流を通じて、「困っている人を助けたい、幸せにしたい」という、そんな純粋な気持ちからボランティアや支援活動が始まるのだと思います。

ボランティアはお金やモノ、そして名誉など見返りを求めないことが原則です。かといってすべて自己犠牲のもとに成り立つものでもありません。他者（ひと）のためだけでなく、もう一方で自分も得るものがあります。それは他者（ひと）の役に立った、喜んでもらった、という充実感や満足感、有用感であり、その感情とその経験はあなたの心に残り、新しい自分を創り出し、人生に厚みを与えてくれます。

翔舞祭で発表された2年保健委員が製作した障がい者理解のための動画もこの1学期印象に残ったもののひとつです。昨年度末、探究発表会で発表した男子生徒の探究学習の発展だと思います。サポートする側・される側が存在し、どちらも同じ社会に暮らす仲間として、双方を尊重しあいながらコミュニケーションを図っていく大切さを描いた動画でした。支援するためには、まず知ることから始まりますが、この動画をつくるにあたって相当勉強したと思います。内容もさることながら、製作するにあたって仲間を巻き込む力、そして巻き込まれて共に学ぼうとする姿勢はとても立派だと感じました。

『ローマの休日』で有名な女優のオードリー・ヘップバーンを皆さんは知っていますか。彼女は人生の後半をユニセフ親善大使として恵まれない人たちへの援助活動をして過ごすのですが、好きだったサム・レヴェンソンの詩を引用して、彼女は「年をとると、人は自分に二つの手があることに気づきます。ひとつは自分を助ける手。そして、もうひとつは他人を助ける手」と言っています。人生は自分のものですが、その一瞬でも他者や社会の幸せのために気持ちを寄せ、貢献したいものです。

ABIMORI、保健委員会以外にも様々な形でボランティアや人を支えたり、裏方で頑張った皆さん、何を学び、何を得たでしょうか。是非振り返って欲しいと思います。

早いもので来週は8月です。昨年もお話ししましたが、8月には長崎、広島原爆の日、終戦記念日があります。今年中野市では数年ぶりに満州殉難者慰霊法要が行われる予定で、2年生は先週、満蒙開拓について学習しました。戦争は過去のものではなく現在進行形です。命に大小はなく、失われる命は数ではありません。私の、あなたの命は数では数えられない、唯一無二の絶対的存在であり、だからこそ大事にして一生懸命生きなくてはなりません。戦争に思いをさせ、自分の大切なものについて改めて考えて欲しいと思います。

さて、3年生はいよいよ自分の進路実現のために、目標に向かって頑張る時期です。この夏休み、自分はどんな人生を送りたいか自分自身としっかり向き合うことが大切です。そして何事も「できないと言わない、思わない」ことです。納得する人生を歩めるよう頑張りましょう。

1・2年生は1学期の学習の不足を補い2学期に備えましょう。部活動で頑張る人もいると思います。健康管理に心掛け、毎日の生活リズムを崩さないよう過ごしてください。

まとまった時間を普段できないことにチャレンジしたり、読書や映画・音楽鑑賞など自分の世界を広げる有意義な休みにしてください。

皆さんにとって事件、事故のないよい夏休みになりますように。

元気に2学期、お会いしましょう。